

Taiwan-Japan Plant Biology 2023(TJPB2023)への参加報告

生命農学研究科 応用生命科学専攻

博士後期課程 2年 前田明里

出張先：台湾 台北市

出張期間：2023年10月13日～2023年10月17日

出張目的：TJPB2023へ参加し、ポスター発表を行う。

概要

日本植物生理学会と台湾植物生理学会の合同国際会議「Taiwan-Japan Plant Biology (TJPB)」はこれまで2年毎に日本と台湾で交互に開催されている。今回は第3回目で台湾の台北市に位置する Academia Sinica にて開催された。私は「The quantitative control of clock protein abundance is essential for temperature compensation in *Arabidopsis thaliana*」というタイトルでポスター発表を行った。



Academia Sinica

所感

台北市は亜熱帯気候であることから市内および Academia Sinica 内においても日本ではみられないような植物に数多く出会えた。特に台湾はランの栽培が盛んらしく、毎年「台湾国際蘭展」が開かれるそうで、会場や街中でも至るところでコチョウランが飾られているのを目にした。今回の KEYNOTE session の1つにはそんな台湾の特色が強く現れた発表があった。ランの花弁形成、花色や花弁の脱落の制御メカニズムに関する興味深い話であり、私自身の研究とは少し遠い分野ではあるものの、基礎研究から応用研究まで見据えた非常に将来性の高いまとまった研究だと感じた。

また、ポスター発表においては Photomorphogenesis and photoperiodic response のセッションで発表を行い、私が研究する概日時計のみならず、概日時計の出力に関わる生理現象についても広く情報収集することができた。私にとって今年度参加した国際会議はこれが2つ目であった。今回は1つ目の国際会議の際に親交を深めた National Taiwan University の学生たちと再会し、お互いの研究進捗を報告しあうなど非常に有意義な時間を過ごすことができた。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えて下さいました当研究室の中道範人教授と、旅費をはじめとして多大なるご支援をして下さいました GTR の皆様に深く感謝申し上げます。